

# 新学習指導要領に向けた ご指導に関するアンケート結果まとめ ＜国語版＞

全国の先生に、2022年度から高等学校で実施される新学習指導要領に関して、新課程におけるおもな課題とその解決の方向、ICT活用、大学入試など、先生方からよくご質問いただく内容を中心におうかがいしました。  
現在の状況や、2022年度以降の課題などを知る資料として、参考になれば幸いです。

2021/4/16



調査テーマ	新学習指導要領に向けたご指導に関するアンケート
調査方法	WEBまたは紙(郵送)によるご回答
調査対象	全国の国公立・私立高等学校、中等教育学校
調査時期	2021年2月16日(火)~2021年3月15日(月)
有効回収数	23件

**【質問内容】****◆全体アンケート(教科共通)**

- (1)新課程カリキュラム編成
- (2)カリキュラム編成上の工夫点
- (3)新課程での指導における課題と解決の方向性
  - ・共通テストへの対応
  - ・個別試験への対応
  - ・ICT活用への対応
- (4)新課程における指導のポイント
- (5)ICT環境の変化による自宅学習のあり方

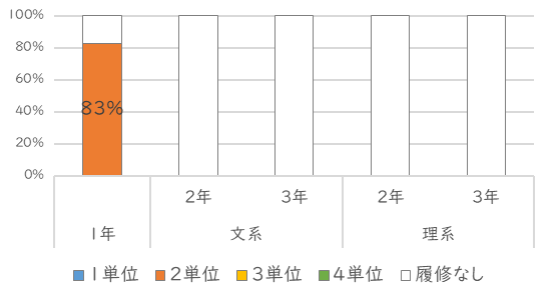
**◆教科独自アンケート**

- (1)論理的文章・実用的文章の指導について
- (2)文学的文章の指導について
- (3)古典の指導について

Q. 2022年度より実施される新学習指導要領におけたご指導についてお聞かせください。

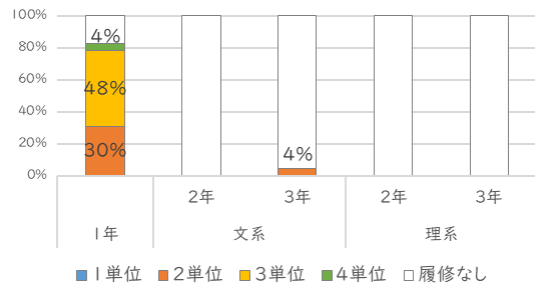
新課程のカリキュラムについて、どの学年で、どの科目を、何単位履修させようと考えているかを単位数でご記入ください。

現代の国語



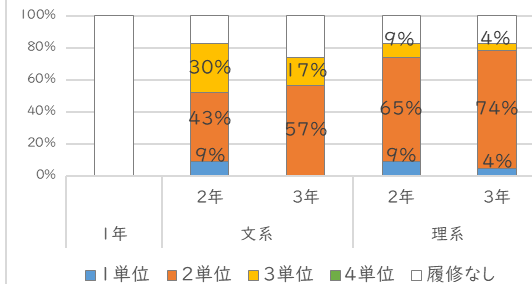
全ての回答が1年次2単位履修

言語文化



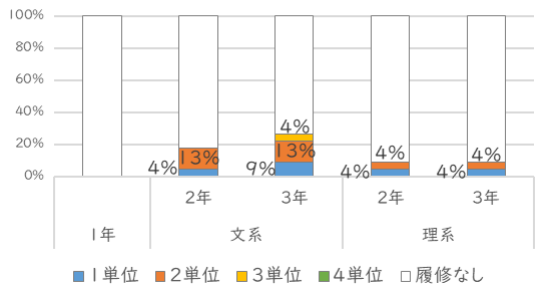
1年次3単位履修が最も多い

論理国語



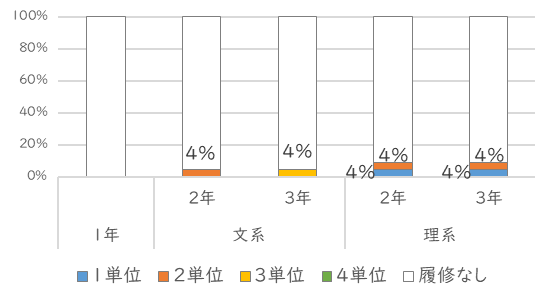
文理とも2、3年次各2単位履修が多い

文学国語



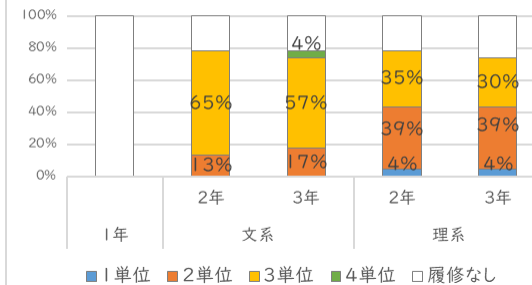
論理国語に比べて履修割合が低い

国語表現



開講予定の学校は少数

古典探究



2、3年次で文系は各3単位履修が多い

カリキュラムの編成でこだわられたポイント、工夫点


理系高3において理系受験を考慮し「古典B」との選択として、学校設定科目「現代文読解」を設定した。

2年次以降の科目の選択

2、3年次理系の時数が少ない中での「論理」と「文学」のやりくり


Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

## ア. 共通テストへの対応

<p>課題</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広範囲にわたる教材、速読並びに多読による文章読解力の育成の指導。</li> <li>・読解力、記述力を育てる点では今までと変わらない。共通テストへの対応としては、模試の受験と結果の検証、3年次での問題演習をしたい。</li> <li>・教材が不十分、教材作り。</li> <li>・実用的文章。</li> <li>・理系の文学国語。</li> <li>・新しいタイプの問題をどれくらい取り入れるか。</li> </ul>
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・单元ごとの要約や意見等のまとめをおこない、生徒たちによる相互評価を実施している。</li> <li>・考査問題に新傾向問題を取り入れている。</li> <li>・授業改善、チームとしての指導。</li> </ul>


Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

## イ. 個別試験への対応

<p>課題</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述力の育成。</li> <li>・1年次から教科書教材で読解力、記述力を育てる。できるだけ良問にあたらせ、解法を身につけさせる。</li> <li>・早い時期から意識付けさせ、いかに取り組ませるか。</li> <li>・教師の作問能力の低下。</li> <li>・読解を深く、記述を的確に。</li> <li>・これまでよりも力点を置かないと、書く力も読む力も弱まるのではないか。</li> <li>・個別指導のあり方。</li> </ul>
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学の傾向と対策。</li> <li>・実力テスト、校内模試の活用。</li> <li>・コース別課外の充実。</li> <li>・問題検討会の充実。</li> <li>・授業改善、チームとしての指導。</li> </ul>

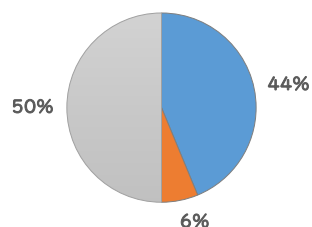
Q. 新課程でのご指導において、ポイントとなる課題とその解決の方向性について、取り組んでいること(今後取り組みたいこと)をお教えてください。

## ウ. ICT活用への対応

<p>課題</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の使用場面やタイミング。</li> <li>・リアルとヴァーチャルのベストミックスをどう実現するか。</li> <li>・学習の個別最適化をどう実現するか。</li> <li>・教員、生徒のICTリテラシー。</li> <li>・教師、生徒相互に個人差が生じる。</li> <li>・有効活用されているかの検証。</li> <li>・環境整備。</li> <li>・指導実践の普及。</li> <li>・縦書き表記の文字数の少なさ(教室での投影時)。</li> <li>・タブレットの利用法。</li> </ul>
<p>対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修および自学での情報収集(本やインターネット等)。</li> <li>・課題配信、授業動画。</li> <li>・遠隔授業。</li> <li>・生徒の定着具合を分析する。</li> <li>・授業改善、チームとしての指導。</li> <li>・電子黒板で用いる教材などの学年を超えた共有について取り組みたい。</li> </ul>

Q. ICT環境の変化により、自宅学習のあり方は、従来と変える必要があるでしょうか。

国語



■ 変える必要がある ■ 変える必要がない ■ まだわからない

- ・「まだ分からない(約半数)」を除くと、約9割が「変える必要がある」と回答。
- ・内容は、「基礎基本の自学」や「授業動画をつかった予習」などがあげられた。

## 【変える必要がある】

- ・ICT普及により、動画等の解説がいつでも視聴可能となり、自宅では、基礎・基本の自学を実施させたい。
- ・音声や映像での課題提出が容易になる。音読は初学時では非常に重要だと考えるので、取り組んでみたいことの一つ。
- ・授業動画をつかった予習。
- ・集団・対面授業で醸し出される学習へ向かうムードをつくらなければならない。
- ・個別最適化された学びの充実。
- ・ICTにて基礎・基本の確認をやらせ、授業や希望者課外で思考力、判断力、表現力につながる演習をさせたい。

## 【変える必要がない】

- ・何を使おうが、自分で読み、考え、書くことが基本なので。

## Q. 論理的文章・実用的文章（「現代の国語」「論理国語」）の指導について

新学習指導要領の「話す、聞く」「書く」に関する体制的な指導方法に関する回答が多くみられた。また、実用的文章、複数資料の読み解きに関する大学入試での取り扱いを注視する回答もみられた。それらも含めて、多様な文章への対応力を養成していく必要性を感じた。

- ・従前と大きな変化はないと思うが、教科書の構成を見てからあらためて考えたい。
- ・新学習指導要領の改訂に伴って、共通テストだけでなく、二次試験の形式も変わるのだろうか、依然変わらなければ、実用的文章、複数資料を横断的に読み解く力だけでない読解力、表現力の育成も必要と考える。
- ・「書く」という作業の中で、「読む」の力を伸ばしたい。アウトプットをゴールとした「読む」の位置づけ。
- ・補助教材を教員が作る必要がある。
- ・総合的な探究の時間と関連づけて様々な文章を読む機会を設ける
- ・文学的文章に対する論理性を育むための時間をつくる必要がある。
- ・「話す、聞く」「書く」の指導を充実させる必要がある。
- ・多様な文章への対応力の養成をしていく必要がある。
- ・「話す、聞く」「書く」に関する体系的な指導方法の研究。
- ・実際の教科書がどのような編成になっているのか、どのような教材が入っているのか、皆わからない段階では考えにくいです。
- ・資料（データ）、実用文の学習をどこまで入れるか、検討の必要がある。



## Q. 文学的文章（「言語文化」「文学国語」）の指導について

「文学国語」をいかにカリキュラムに入れるかという点が最も大きく、「文学国語」を履修しない場合は、理系中心に、共通テスト対策が課題となる、という回答がみられた。

よって、2年生以降で「文学国語」を履修しない場合の学習のあり方について検討する必要がある。

- ・文学的文章は主に副教材で扱うことになると思う。
- ・「文学国語」をカリキュラムに入れられるように検討したいと考えている。
- ・教材がどうなるのか（従来と異なり、「論理国語」と「文学国語」は別個の教科書になるのか）、実際のところが全く分からないので、何ともいえない。
- ・「文学国語」を履修しない場合、補助教材を教員が作る必要がある。あるいは副教材を有効活用していくしかない。
- ・理系は2年生以降で「文学国語」を履修しない場合、共通テスト対策（文学的文章）が課題となる。
- ・理系の文学国語の授業がなく、共通テスト対策が課題となる。
- ・実際の教科書がどのような編成になっているのか、どのような教材が入っているのか、わからない段階では考えにくいです。
- ・2年生以降で「文学国語」を履修しないので、文学的文章の学習をどうするかが課題となる。

## Q. 古典（「言語文化」「古典探究」）の指導について

古典にあてる時間が減り、これまでのような文法、句法の学習ができるか不安という声がある。よって、知識事項を授業で扱わずに定着させる工夫が必要という声がある。実際の教科書を見てから、より詳細な検討がなされると思われる。

- ・基本的には従前と変わらないと思う。
- ・教科書を見ていないのに授業計画を立てるのが難しい。
- ・文法・単語・句形・語彙等の知識事項を、授業で扱わずに定着させる工夫が必要。
- ・「言語文化」では小説も扱うので、1年生において古典に割ける時間が減り、進度が遅くなる可能性がある。
- ・授業で文法・句法を体系的に扱うことが難しくなる。
- ・実際の教科書がどのような編成になっているのか、どのような教材が入っているのか、わからない段階では考えにくいです。
- ・これまで通りの文法、句法の学習ができるか、不安である。



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。  
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。  
本資料に関するお問い合わせや、  
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

**ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料**

受付時間/月～金 9:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)